

1. 検討経緯

大宮駅周辺地域では、まちなかの賑わい創出、回遊性の向上などを目的に、“居心地がよく歩きたくなるまちなか”づくりを行っています。駅前道路の「大宮停車場大成線」の駅至近の区間（以下、駅前区間）については、“歩行者優先のみち”とするために、平成30年度～令和3年度にかけて地元関係者の皆様と計11回のワークショップを開催し、再整備に関するハード面（＝しつらえ）の検討を行いました。

令和4年度は、計4回のワークショップを開催し、再整備によって新しく生まれ変わる駅前区間のさらなる“魅力向上”、“賑わい創出”、“安心安全の確保”のために、**地元の皆様が主体となった「維持管理・利活用（＝とりくみ）」に関する検討**を行うとともに、**令和5年2月に歩道拡幅等の再整備工事に着工**しております。

併せて、駅前区間に接続する「レンガ通り」についても、さらなる魅力向上のための再整備に向けた検討を行いました。

本紙では、4回のワークショップでの検討のまとめをご報告します。

令和4年度検討内容

- ①駅前区間における日常的な維持管理・利活用（＝とりくみ）に関する検討
- ②レンガ通りにおける再整備に向けた検討

【ワークショップ開催日時】

- ◆第1回：令和4年10月25日（火）
- ◆第2回：令和4年11月22日（火）※事例視察会
- ◆第3回：令和5年1月30日（月）
- ◆第4回：令和5年3月7日（火）



ワークショップの様子



整備後の駅前区間のイメージ

2. 維持管理・利活用（＝とりくみ）に関する検討

この度、再整備工事を行う駅前区間は、**新たな《しつらえ》を備えた『みち』**として、**次代の西口のまちづくりの基軸となり、西口のまちづくりをリード**していくことが期待されています。

新たな《しつらえ》を次代の西口の資産・財産としていくためには、**「つくって終わり」ではなく、きちんと維持管理・利活用（＝とりくみ）**していくことが大切です。

そのため、①維持管理については、『みち』の**美化・ごみ廃棄に関する取り組みの必要性を確認**するとともに、事業ゴミの出し方に関するアンケート調査を実施しました。②利活用については、オープニングイベントを実施していく方向性となりましたので、**再整備工事後（令和5年度中）にオープニングイベントを実施**し、その後、日常的な利活用へつなげていきたいと考えております。

①維持管理（美化活動・ごみ廃棄等）

【ワークショップで頂いたご意見】

- ⇒歩道上に事業ゴミを出している店舗がある。紙ゴミや生ゴミが散乱していることがある。
- ⇒路上飲酒やタバコの吸い殻のポイ捨てが見受けられる。
- ⇒せっかく道路を綺麗に再整備するので、**ゴミの出し方に関するルール作りが必要**（地元も努力が必要）。
- ⇒道路を綺麗にする等、**沿道活動の輪を広げていく**ことが必要。

【美化活動】

●当該区間は市道であることから基本的にはさいたま市の管理となりますが、清掃の頻度は多くありません。

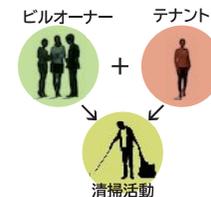
⇒**日常の清掃については、ビルオーナー様やテナント様と取り組んでいただくことで、いつも清潔なイメージを印象づけられる『みち（沿道）』**になると考えます。

【ごみ廃棄】

●人々が行き交う『みち』に、ゴミ袋が無造作に置かれているだけで、その『みち（沿道）』のイメージは損なわれます。

⇒**ビルオーナー様・テナント様が常に意識を高く持ちながら、ごみ出しに関する独自の工夫をしていくことが必要**と考えます。

【美化活動のイメージ】

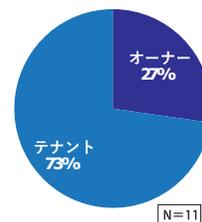


【ごみ廃棄のイメージ】

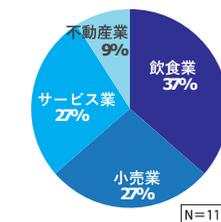


事業ゴミの出し方に関するアンケート調査結果（令和4年1月実施）

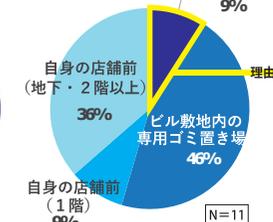
【Q1】回答者の立場



【Q2】回答者の業種



【Q3】事業ゴミを出す場所



【Q4】「道路上に直置き」をする理由



② 利活用（情報発信・商業活動・イベント等）

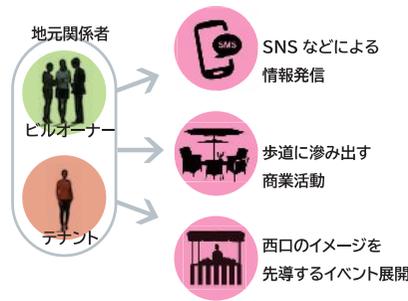
【ワークショップで頂いたご意見】

- ☞ オープニングイベントの実施は基本的に賛成。大宮停車場大成線の価値を皆に知ってもらえるようなイベントにしたい。
- ☞ 一時的ではなく、継続性のあるイベントを行っていくことがまちの発展につながるのではないか。
- ☞ 日常的な利活用は、まずはオープニングイベントを行い、道路空間を利活用している状況を見てもらってから本格的に検討をスタートするのがよい。
- ☞ イベントを行うのであれば、インパクトがあるものが良い。
- ☞ 鐘塚公園との連携したイベントをおこなうことも効果的であるとする。

● 利活用については、以下の取り組み等が考えられます。

- ① 『みち（沿道）』の存在を知っていただくため **情報発信**
- ② 幅が広がる歩道空間を活用した **商業活動**（沿道への参み出し）
- ③ 来訪者の興味関心を惹きつける **イベント**の開催

➔ イベントについては、**次代の西口のまちが目指すイメージを先導していくようなテーマに基づく取り組みを沿道の関係者を中心に展開していくことが想定されます。**



【西口のイメージ・キーワード（案）に基づくイベントの例】

小洒落た



市内のおいしいパンが買える・食べられる機会を留意

目的型



生活シーンを豊かにする花や植物が買える機会を留意

洗練

秩序

整然

平静



新鮮な有機野菜を買える・食べられる機会を留意



アクセサリーなどが買える・体験できる機会を留意

3. レンガ通りの再整備に向けた検討

歩行者を中心とした“居心地がよく歩きたくなるまちなか”づくりのために、老朽化が目立つレンガ通りについて、**駅前区間と一体的な道路空間とするため、再整備に向けた検討をスタート**しました。

令和5年度も継続して、再整備の考え方を検討していきます。



【ワークショップで頂いたご意見】

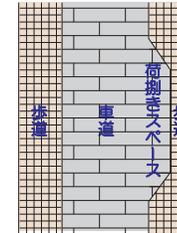
- ☞ 再整備により回遊性を向上させ、通りの個性を活かした取り組みを行い、活性化を図る
- ☞ 人通りを増やすため、暗いイメージを解消する整備（街路灯や舗装等）を行い、イメージアップを図る
- ☞ 荷さばき車両を考慮しつつ、交通規制のあり方（一方通行化）を含めた歩行者優先化の検討を行う

レンガ通りの再整備の考え方（歩行者空間の整備方法による比較）

A：歩行者空間を物理的に整備する場合

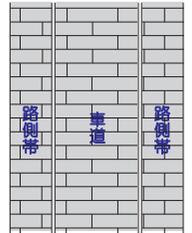
案1：歩道整備案

- ・両側に歩道を整備
- ・荷捌きスペースとして歩道の一部を切り欠き



案2：路側帯整備案

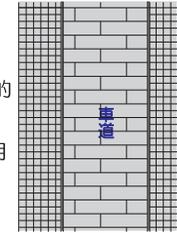
- ・両側に路側帯を整備し、歩行者空間を確保
- ・荷捌き車両は、路側帯の一部を活用（歩行者が歩けるスペースを確保して駐車しておくことが必要）



B：歩行者空間を視覚的に整備する場合

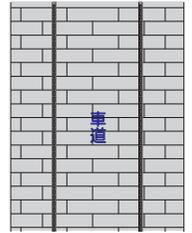
案3：舗装パターン案

- ・舗装パターンを変えることで、自動車空間と歩行者空間を視覚的に創出
- ・荷捌き車両は、歩行者空間を活用



案4：スリット側溝案

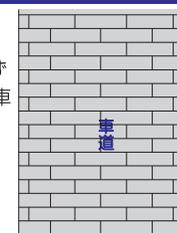
- ・スリット側溝を整備することで、自動車空間と歩行者空間を視覚的に創出
- ・荷捌き車両は、歩行者空間を活用



C：歩行者空間を整備しない場合

案5：一体整備案

- ・自動車空間と歩行者空間を分けずに、現状と同様に歩行者と自動車共存した道路空間
- ・荷捌き車両は、道路の端を活用



令和5年度も大宮停車場大成線の維持管理・利活用及びレンガ通りの再整備に向けた検討を継続して参ります。

引き続きご理解ご協力の程よろしくお願いたします。

ワークショップへの参加もお待ちしております。

